広域連携ＳＤＧｓ未来都市提案概要

別紙２

【事業名】 リニア時代に備えた持続可能なスローツーリズム構築事業　～森林（もり）の癒し　ストレスマネジメントの里づくり～

【提案者】
岐阜県中津川市
長野県塩尻市、上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村、阿智村

【事業概要】
地域固有の共通資源を最大限活用してリニア時代に備えた持続可能なスローツーリズムを構築する。圏域内の雄大な自然をゆっくり満喫できるプログラムを用意し、「**森林の癒し、ストレスマネジメントの里**」を実現し、国内外から周遊・体験・滞在するリピーターを増大させることで、持続的に発展する地域を形成する。

地域概要

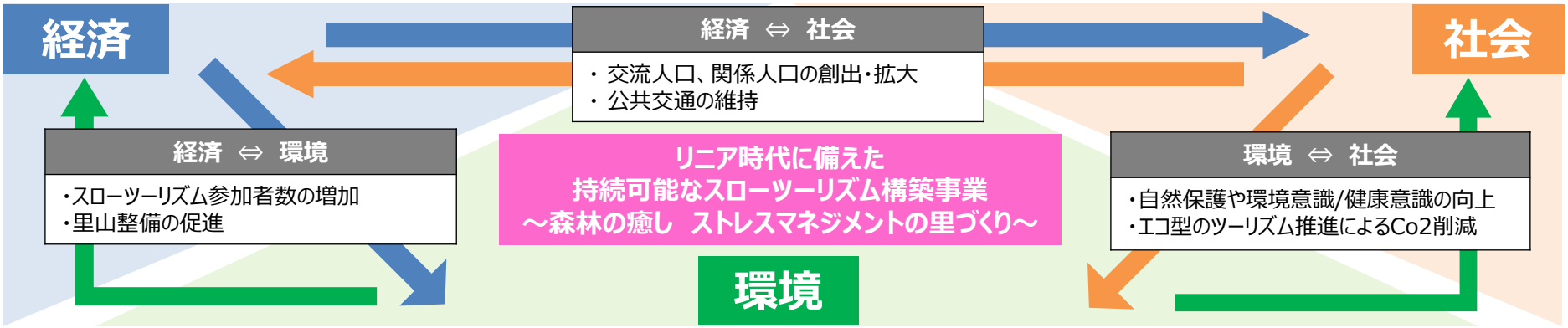
岐阜県南東部と長野県南西部に位置し、総面積は約2,727km2、総人口は約16.9万人。古くから中山道や東山道の宿場が整備される交通の要衝として栄えるとともに、森林率84.4%の雄大な自然環境を有し、木曽檜をはじめとする木材の産出や岐阜県・愛知県の水源地として重要な役割を担っている。

課題・目標設定

課題	共通資源の活用、観光データ収集・分析、観光を通じた森林活用
目標	リニアの時間短縮効果を活かし、雄大な自然により心身の健康を保持する「ストレスマネジメントの里」を実現。森林活用・保全による里山整備や観光客・住民双方の環境・健康意識の増進を図る。

03,d　08,9　09,1　12,8　15,2

事業により新たに創出される効果等



執行体制

構成２市３町４村で「中津川・塩尻・木曽・下伊那広域連携ＳＤＧｓ推進協議会」を設立。各市町村の観光担当部署と長野県木曽広域連合で広域観光部会を設置し、岐阜県と長野県をオブザーバーとして迎え、業務を執行。

多様なステークホルダーとの連携

岐阜県・長野県（推進協議会オブザーバー）、中津川市観光局、木曽観光連盟、阿智昼神観光局、公共交通機関、東濃森林管理署、木曽森林管理署、現地ガイド、通訳案内士、観光関連事業者、圏域住民

自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

・スケールメリットを活かして「森林(もり)の癒し　ストレスマネジメントの里」づくりを行い、デジタル技術を活用して国内外に向けて発信するなど、健康保持や地域経済の発展等につながる「リニア時代に備えた持続可能なスローツーリズム構築事業」を行う。
・圏域内観光の目指す姿がより確かなものとなることで、民間の更なる再投資や圏域住民のSDGｓへの気運の醸成に繋がる。